

会報

# 山口七夕会

令和5年（2023年）9月

第52号

発行：会報編集委員会／事務局

題字/書・原野和夫氏



国宝瑠璃光寺五重塔 令和の大改修

< 目 次 >

秋草会長挨拶	3
令和5年度年次総会(報告)	4
今、伝えたい、山口七夕会の歴史と心	6
中国における遺棄化学兵器処理事業(松花江(佳木斯地区)事業)について	8
山口いいとこ、も一度住もう!	10
【講師の寄稿】金子みすゞ生誕 120 年「みすゞさんを深掘り!」	12
山口七夕ちょうちん祭りの火入れボランティア	14
山口七夕会の活動再考	16
令和5年度山口七夕会ふるさと山口本部「夏の講演・交流会」の報告	17
【リレーコラム】～ふるさとの味めぐり～人を繋ぐめんま作り	18
テキスト生成 AI による「山口市の紹介」	19
第7回山口七夕会ふるさと山口本部音楽祭 輪-RIN-(報告)	20
編集後記の後記	21
新入会員及び法人会員の皆さん/新任・再任の山口七夕ふるさと大使委嘱者	22
役員一覧	23
各種イベント等のお知らせ	24
投稿募集/公開会員名簿への掲載承諾のお願い/メールアドレス登録のお願い	26
編集後記	27

※会報は山口七夕会のHPにもアップします。カラー版をHPでお楽しみください。

## 会長挨拶

### 山口市の歴史・情報に心を寄せて



今年は梅雨の途中から晴天が続き暑い夏を予感させましたが、予想に違ふことなく7, 8月は本格的な暑い夏になりました。しかも暑さは例年とは異なり「異常」と思えるほどの厳しさでした。日本だけでなく世界的にも厳しい暑さが到来した様だったと聞いています。ただ一方、コロナ明けで気持ちも高揚し、人々の活動は活発になり各地での催しも盛んに開催されるようになりました。

先日8月5日(土)には山口市長他、山口市議会議員、山口市役所・役職員の皆様、ふるさと山口本部の方々と多数の本部会員の参加を得て、七夕会本部の総会・交流会が行われました。総会では一年間の活動報告、新体制発表の後にコロナを挟んで3年ぶりに「山口七夕ふるさと大使」の任命書が山口市長から直接手交されました。山口七夕ふるさと大使を代表して前会長八木顧問からのご挨拶も頂きました。

引続き伊藤山口市長から、今年の上口市での大雨による災害状況の説明がありました。今年の大雨は九州・山口地方に線状降水帯が発生し、過去に経験がないような大雨が降り続いた結果、上口市の災害も例外ではなく、今後の復興にもまだ時間が掛かるとの説明がありました。その後、山口市長から大内氏にまつわる視点も加えた上口市についての歴史的な魅力についてのご講演が行われました。大内氏のことを書いた書物も持参され、大変分かりやすいご説明に参加された皆さんが聞き入っておられました。

講演会に続き交流会では皆さんご歓談のあと「じゃんけん大会」が行われ、上口市に因んだ商品が配られました。皆さんが久しぶりにコロナを忘れ、真剣に「じゃんけん」を楽しんでおられた姿が印象的でした。また岡本大先輩による浪曲風「君が代」のご披露があり、いつもの七夕会交流会の雰囲気盛り上げて下さいました。

ところで七夕会幹事の方々が色々面白いイベントを企画しています。前回号で紹介した「ウキウキ抽選会」と題する抽選会イベントを通じ、山口ゆかりの品物を配り山口をより身近に感じてもらうという企画など、七夕会幹事の皆さんが若い人たちの心に訴える企画をどんどん考え実行してくれています。今回の総会・交流会でも所謂「若手」が多数、新規に七夕会に参加して下さいました。若い人たちの七夕会企画への参加により、七夕会をさらに盛り上げて下さることを期待しています。新しい形での七夕会の運営をお願いする次第です。

最後に七夕会の機関紙「会報」への皆様からのご寄稿をお願いします。今回から会報の編集はふるさと山口本部が中心になって進める体制となりました。より上口市に関する現在・過去の情報の収集・拡大に期待したいと考えています。「ふるさと上口市の発展に寄与する」ために、今後とも七夕会を通じて努力して行きたい、会員皆様のご協力とご支援を賜りたいと思います。

令和5年(2023年)9月

山口七夕会 会長 秋草 史幸

令和5年度年次総会（報告）

本部・幹事 神原 昭彦（会員No.680）

令和5年度年次総会は8月5日（土）、連日の猛暑にも拘らず、山口市長や山口市議会議長をはじめ山口市からの来賓を迎え、東京飯田橋のインテリジェントロビー・ルコにて開催された。コロナの第5類移行を受け、久しぶりに会員46名に来賓を含め75名の出席者で満席となる中、奥原副会長の開会宣言、秋草会長のご挨拶から議事に入り、総会第一部、第二部の全ての議案が異議なく承認された。

【総会第一部】

- ・ R4年度 事業報告・決算報告・監査報告
- ・ 会則一部改訂について
- ・ R5年度役員選任（会長・評議員・監査役）



秋草会長挨拶

【総会第二部】

- ・ 新会長挨拶・新役員（評議員・監査役）紹介
- ・ 副会長・本部長・顧問指名、紹介
- ・ 本部役員・ふるさと山口本部役員紹介
- ・ R5年度事業計画・R5年度予算審議

【総会第三部】

- ・ 伊藤和貴山口市長ご挨拶
- ・ 入江幸江山口市議会議長ご祝辞
- ・ 「山口七夕ふるさと大使」任命及び代表者挨拶

第三部の冒頭、伊藤和貴山口市長のご挨拶では、4年ぶりに復活開催された「山口祇園祭」が1200人参加の「市民総踊り」で大いに盛り上がったことや、9回目「湯田温泉スリッパ卓球大会」の開催について、石川佳純さん出場にも含みを持たせて報告された。

続いて入江幸江山口市議会議長の祝辞では、コロナが明けてこの様に盛大な総会が開催されたことへのお祝いの言葉を頂いた。また、総会に引き続いて行われる伊藤市長の「大内文化と山口市のまちづくり」の講演に期待している旨と日本三名塔の瑠璃光寺五重塔の改修工事

に触れ、2026年の完成を心待ちにしているとの話があった。その後「山口七夕ふるさと大使」17名の任命と八木山口七夕会前会長による代表者挨拶が行われ、総会の部は閉会となった。



伊藤和貴山口市長挨拶



入江幸江山口市議会議長祝辞

## 伊藤和貴山口市長講演会『大内文化と山口市のまちづくり』

総会后、伊藤市長より先ず山口市の近況として大雨被害の状況と山口市役所新本庁舎の建設工事の進捗状況の報告があり、続いて「大内文化と山口市のまちづくり」について講演が行われた。

大内氏と東アジア、世界との関わりの歴史と、サビエルと山口、キリスト教布教の許可をサビエルに与えるなど、大内氏のまちづくりと海外との交易への先見性とバランス感覚が現代のまちづくりにおいても大変参考になるとの話があった。現在、山口市はサビエルの故郷であるスペインのパンプローナ市と姉妹都市提携に基づく交流を深めており、パンプローナ市には「やまぐち公園」がある等のご紹介を頂いた。また、大内氏遺跡、参加料 100 万円の「西の京やまぐち大内体験プラン」、高嶺城跡の発掘調査、築山跡史跡公園の開園と蹴鞠、雪舟庭と YCAM での「庭園アーカイブプロジェクト」のつながりなどの紹介があり、高まる期待に応える非常に内容の濃い講演会であった。



伊藤和貴山口市長による講演会

講演会終了後、懇親会を実施。

シャンソン&アルゼンチンタンゴ歌手として活躍される山口蘭子会員のご発声による乾杯の音頭で始まった。

懇親会では、山口県東京事務所長に新しく就任された清水久洋様の祝辞、山口市商工振興部中村千里部長から山口市のふるさと納税のご案内があり、和楽器バンド「遠 TONE 音」の主催者でもある小野美穂子幹事の箏のソロ演奏が披露された。

その後、山口七夕会若手 (30~40 代) 代表として岡本暁彦会員の挨拶と山口市総合政策部吉村計広部長の中締めから今回も岡本浩次会員の「君が代」の舞で懇親会は締められた。



山口蘭子会員による乾杯



小野美穂子幹事による箏の演奏

## 今、伝えたい、山口七夕会の歴史と心

相山 俊哉（会員No.579）

夏恒例の山口七夕会年次総会、ふるさと山口本部講演・交流会も無事終了しました。役員の皆さんをはじめ、準備、運営に携わられた方々に心より感謝申し上げます。本会報を通じ、会員の皆さんに年に一度この季節に思いを巡らせていただきたい七夕会の歴史と心を、七夕会副会長・本部長経験者としてお伝えします。私はこれからも、ふるさと山口本部と本部の双方を知る者として、両本部の橋渡し役となりながら、愛するふるさと山口市の発展のために努めて参ります。

### 1. 七夕会の原点は東京での山口七夕ちょうちんまつり

#### <七夕会設立経緯>

●1993年8月：山口商工会議所青年部が東京都世田谷区の「ふるさと区民まつり」に山口七夕ちょうちんを出展。

山口七夕ちょうちんまつりを東京で再現して山口市をアピールせよとのミッションを受け、現在ふるさと山口本部事務局の馬越尚史さんを中心とする青年部が候補地選定に動くものの、消防法が立ちはだかり選定は難航（消防法制定以前の室町時代からの祭りであることなどから、山口市では今も火のついた提灯を竹につるして商店街を飾ることが認められている）。

世田谷区の「ふるさと区民まつり」に決定したのはまつりの直前。大急ぎで提灯を調達、竹を切り出し、県、市、観光協会、旅館組合等の支援も得て準備を進めるも、まつりの前日の突如の夕立に提灯はアツと言う間にすべておぼけ提灯に。翌早朝から予備の提灯を投入して突貫作業。快晴に恵まれた夕刻19時、区長や来賓者による「提灯火入れ式」が行われ（下写真ご参照）、2000個の提灯に灯がともる。



●1997年8月：市からの要請で集まった東京在住の山口市ゆかりの有志が区民まつりで提灯に火入れ実施。

諸事情により区民まつりでの山口七夕ちょうちんの出展はこの年が最後になる。

●1997年12月：区民まつりをきっかけに山口七夕会設立の企画が持ち上がり関係者による協議がスタート。

●1998年8月：(仮称)山口七夕会発起人会開催。

●1999年2月：山口七夕会発起人一同による設立趣意書のもと山口七夕会設立総会開催。これが、今年で24年目、原点は1993年にまで遡る七夕会の歴史です。

### 2. 七夕会は全国的にも珍しい「市」の愛郷会

東京には山口県ゆかりの会「防長倶楽部」があります。他県においても全国各地に県人会や同郷会、高校等の同窓会が存在します。

しかしながら、市を単位とする市ゆかりの同郷会、愛郷会は非常に珍しいようです。

私が山口市の生涯活躍のまち地域再生協議会委員を務めていた頃、山口市役所と連携して、市単位で設置されている東京事務所について調べたことがあります。

その際、訪問先の市の東京事務所の方から一様に、「“郷土の発展に寄与する”ことを目的とした市の愛郷会がある山口市が羨ましい。」とのコメントを頂きました。

山口市は東京に事務所がありません。

だからこそ、「本部」は山口市のイメージアップやシティーセールスを担います。東京近郊で山口市が参加するイベントがあれば東京近郊の会員が駆けつけますし、主催するイベントでは運営のお手伝いをすることもあります（下写真ご参照）。

また、総会や本部主催の交流会等では、山口市へのふるさと納税を呼び掛けています。



2023.7.13 東京「やまぐち館」にて

一方で、1999年に東京で山口七夕会が創立された後、2012年に山口支部が設立され、2014年に山口本部に移行し、2018年に「ふるさと山口本部」と名称変更されます。

今では「ふるさと山口本部」に縁が深い山口市近郊の会員数が、「本部」を含む県外会員数を上回っています。市長も参加される「ふるさと山口本部」の交流会などの各種イベントを通じ、地元山口市との縁や絆を実感しながら、事務局と連携して市民目線で山口市と本部を支援する「ふるさと山口本部」の存在は、「本部」とともに山口七夕会を支える大きな柱であり、ひいては山口市の大きな力となっています。

### 3. 七夕会を支える愛言葉、それは「山口愛」

七夕会に興味を持たれた方から、入会資格を尋ねられることが良くあります。

答えはシンプルです。住所地や出身校も、職業や所属する団体・組織も、年齢も全く関係ありません。ご自身が山口市出身でなくても、親族が山口市に住んでいる方、山口市にある学校に通ったことがある方、山口市で勤務したこと

がある方など、山口市にゆかりのある方であれば、どなたでも会員になることができます。

また、七夕会の設立目的の一つである「郷土山口市の発展に寄与する。」にご賛同いただける方であれば、七夕会会員の友人・知人といった方でも大丈夫です。

山口市を愛し、山口市の絆で交流することを望まれる方であれば、どなたでも大歓迎です。それぞれの立場や利益にとらわれることなく、お互いに個性の違いを尊重しつつ、共通の愛言葉「山口愛」でつながるのが、山口七夕会の心です。

## 中国における遺棄化学兵器処理事業（松花江（佳木斯地区）事業）について

宮木 浩（会員No.552）

山口七夕会の皆さんこんにちは。私は、内閣府遺棄化学兵器処理担当室で勤務している宮木と申します。私に関わっている仕事の概要と実際にこの春に携わった松花江（佳木斯地区）事業等について紹介させていただきます。

### ●内閣府遺棄化学兵器処理担当室の仕事について まず仕事の概要です。

私が所属する内閣府遺棄化学兵器処理担当室は、化学兵器禁止条約に基づき旧軍が中国各地に残置してきた化学兵器を発掘・回収し、これを無害化することを任務としています。

そこで内閣府要員を団長とし、各受託業者からなる日本側作業団を編成し現地に赴きます。ただし日本側作業団が現地で勝手に事業を進めることはできません。中国外交部（日本の外務省に相当）要員を団長とする中国側協力団との連携が必要となります。

発掘・回収等の主体は日本側ですが、中国側には、事業関係施設の建設等といった事業の準備や撤収、発掘した化学兵器の一時保管、事業地区の警備、地元対策等をお願いすることになります。

事業は、中国側と協議を繰り返しながら計画を立てることから始まります。協議は東京と北京をオンラインで繋いで行います。そして合意した計画に基づき現地での作業に取り掛かります。

現地では日中で情報の共有を図りながら日々調整を繰り返し作業を進めます。最後に日中双方で作業を行った場所に化学兵器が存在しないことを確認し合意書を取り交わすことにより事業は終了します。

中国側のカウンターパートは中国外交部の要員です。

中国外交部というとニュースによく出てくる報道官の高圧的な態度で傲岸な発言を繰り返す姿が印象的ですが、あのような人に会ったことはありません。

外国が相手の仕事ですから緊張感をもって厳しい交渉を強いられることもあります。しかし我々が真摯かつ真剣に対応すると中国側協力団長たち担当者もこれに答えてくれます。

彼ら彼女らは外交部で日本を担当しているだけに日本への留学や在日大使館や領事館等での勤務経験を持ち日本語が堪能な人も多く、日本語で雑談を交わす機会も多々あります。ちなみに私は、中国語が全くできません。中国側との調整は、日

本語ができる担当者との間でも必ず通訳さんを通じて行います。

### ●松花江（佳木斯地区）事業について

次に松花江（佳木斯地区）事業について紹介します。

松花江は、中国東北部にある黒竜江省を流れる川で黒竜江（アムール川）の支流にあたります。支流と言っても川幅は1kmほどもあります。山口県の皆さんであれば関門海峡ほどの幅を思い出していただければイメージしやすいかもしれません。佳木斯（ジャムス）市は、松花江の中流域にある人口100万人の街です。

終戦直前に旧軍がこの街に保管していた化学砲弾を松花江に投棄したとされていますが詳細はよくわかっていません。以前、松花江の川底から採石業者が砲弾を拾い上げこれを鑑定したところ旧軍の化学砲弾であることが判明したため事業が開始されました。

これまで化学砲弾が発見される場所は、山中や野原などの陸地が殆どでした。ところが佳木斯地区の事業現場は、松花江という大河の川底であることに加え、流れる水が泥水という特殊な状況にあります。また冬季に松花江は、完全に凍結するため事業が実施できる時期に制約があります。

これらのことが松花江（佳木斯地区）事業の特徴であり本事業実施に大きな困難が伴う理由となっています。これらに加え化学砲弾が投棄されたと考えられる区域が広大であることから本事業の終結には10年以上が必要と見積もられています。

事業は、大きく分けて3つの段階に分けることができます。探査、発掘及び回収の3段階です。

まず探査です。先に述べた通り松花江の水は泥水です。目で見て発見することはできません。更に砲弾は、川底に転がっているものもありますが、多くは長い年月をかけ土砂に埋もれています。対象物は、化学砲弾で、信管が付いている可能性もあります。このため重機を用いて浚渫する要領で発掘することは危険です。従って事故を防ぐため砲弾を磁気や音響などを活用した特殊な器材を用

いて丁寧に探査することにより発見し、1発ずつ位置の特定を行う必要があります。

次に発見し位置を特定した砲弾を発掘します。発掘には二つの方法があります。一つは潜水土を潜らせて発掘する潜水工法、もう一つは川の一部を締め切って陸地化し発掘する締切り工法です。

潜水工法は、比較的砲弾がまばらに存在するエリアや締切り工法にあたり鋼矢板という鉄板を打ち込む場所の砲弾を先行して発掘する際に行います。

これに対し締切り工法は、砲弾が密集して存在しているエリアを発掘する場合に採用します。最後に回収です。

回収とは、発掘した砲弾が旧軍の化学砲弾か否かについて鑑定するとともに最終処分するまでの間、保管するため砲弾を密封し梱包する作業です。回収した化学砲弾は、一旦中国側に引き渡します。引き渡した化学砲弾は、無害化のための専用施設に輸送されるまで中国の弾薬庫で厳重に保管されます。

これら探査、発掘そして回収といった3段階の作業をそれぞれ専門の受託業者の力を借りて事業を行います。

今年度、私は日本側作業団の先遣隊として各受託業者の代表とともに4月15日に出国しました。現地到着後ただちに中国側と合流し事業開始にあたって借用する施設や船舶などの確認及び作業の段取りなどの調整を行いました。その上で後続して到着するグループの受け入れを行いつつ探査作業に関する業務を監督しました。続いて開始した発掘及び回収作業が軌道に乗ったことを見届け6月14日に帰国しました。

今年度の続きの事業は、後続部隊が8月まで実施することになっています。

### ●中国出張中の生活について

中国での生活ですが、事業参加中はホテル住まいになります。ホテルは清潔で日本のホテルと異なる点は、日本語が通じないことと朝食のバイキングに味噌汁や梅干しがないことくらいです。

現地の物価ですが500mlの青島ビールが100円、地元の佳木斯ビールが50円くらいです。呑兵衛に優しい価格設定です。外食してもラーメンやチャーハンであれば200円も払うと食べきれないほどの大盛が出てきます。

また火鍋という中華風しゃぶしゃぶの店に行ってもビールをたらふく飲んで食べても2000円足ら

ずで大宴会ができます。休みの日は松花江沿いの遊歩道を散歩したりジョギングしたりして気分転換を図っています。

公園では、団体で隊列を組み音楽と号令に合わせて歩きながら運動する「佳木斯ダンス」が行われています。私も勝手に隊列に紛れ込み、見よう見まねで参加していました。「佳木斯ダンス」に興味をお持ちの方がおられましたらYouTubeで「佳木斯ダンス」と検索し御覧になってみてください。

### ●おわりに

私たちが行っている事業に対し、「反省に基づく戦後処理の一環なのでしょくか。」とか「今や経済力や軍事力を背景に我が国を含む周辺諸国に問題をまき散らす中国を利することになりませんか。」などと聞かれることがあります。そのような側面が全く無いとは言いません。

しかし私は、この事業を日本という国は相手国がどこであろうと国際的な約束事である条約をきちんと守り抜く国であることを内外に示すものであり、我が国の国益にかなったものだと考えています。その上で日の丸を背負っているとの気概と誇りをもってこの事業に参加しています。

この事業や中国での生活にご関心をお持ちの方がおられましたら気軽に声をおかけください。6月の帰国後ですが、7月25日に出国し、同じ黒竜江省の牡丹江事業に参加します。



火鍋 (中華風しゃぶしゃぶ)



松花江沿いの遊歩道



「佳木斯ダンス」

## 山口いいとこ、も一度住もう！

顧問 渡邊 史信（会員No.364）

前回国報6月号にてご報告しました東京品川から山口市への転居の顛末に続き、山口市で50年ぶりに始めた生活経験の中で、独断と偏見満載の気付きを書いてみます。山口市も広く、私の経験は本当に狭い地域の話ですので決して普遍的かつ一般的ではないのは承知の上ですので、そのつもりでお読みください。山口市在住の方には、新たな発見につながれば幸いです。（以下順不同思いつくまま）

### 1. 七夕提灯祭り（8月6日、7日）に参加

「参加」というのは提灯の火入れを七夕会の面々と一緒に二日間行い、最終日の提灯の火消しと竿の片づけの手伝いまでをしたという意味です。全て初めての経験です。

火入れはろうそくの取り付け方によっては、提灯が燃えるので（実際2-3個燃やしてしまいました）慎重にかつ手早く付け、提灯を開きます。

竿を立てる時はどうしても斜めになる瞬間があり、ここでも燃える場合があります。1-2個燃やしました。すみません。

提灯は何回か使って結構傷んでいるのも多くありました。新品は約380円/個（散髪屋にて聴取、正しいかは保証しません）だと。

竿は商店街の通りの両端に開けてある丸い穴に差し込み、補強用の竹や木を差し込んで、紐で電柱や街灯、ビルに固定します。

穴は普段は金属の蓋つきで、何だろうと気になっていました。商店街全体が提灯祭り仕様になっているわけです。

そして最後の火消しは豪快です。竿を外して、街路にエイッと叩きつけることにより、火は一瞬で消えます。

提灯外しは竿とつながり細い針金を撚り戻して一個一個外していたら、商店街の方が「おとーさん、何してるの！」とパチンとペンチやハサミで切り取って行きました。成程。

竿は皆で手分けして決められた集積場に持って行き、後は業者が回収です。あっという間に商店街の提灯飾りがなくなりました。見事な手際です。

### 2. 提灯祭り明けの8日の朝

愛犬ハナの散歩がてら一の坂川兩岸（千歳橋と西京橋の間）と米屋町商店街を「祭りの名残のゴミを拾うぞ！」と軍手とゴミ袋二つ持って歩きました。

ところが何と！ペットボトルや缶はもとより、タバコの吸い殻含めてゴミひとつありませんでした!! 山口市の民度の高さ、商店街の方々や私より早く散歩された方々、ゴミ拾いボランティアの方々のご尽力もあったものと推察いたします。全く感服です。素晴らしい!! ☆☆



### 3. 鳥の話

丁度春で我がマンションにも燕が来て、3 個巣を作り、子育てして巣立っていきました。

山口は多くの鷺が優雅に飛んでいます。シロサギ・アオサギが、一の坂川でも小魚を捕っています。散歩の途中の楽しみです。東京では燕や鷺は殆ど見たことがなかったので新鮮です。

鷺は熊野町にある標高 40 m の権現山の中腹に営巣しているらしく、ご近所では糞害に憤慨しているとの事。ちなみに東京では良く見たカラスや雀を殆ど見ません。何故でしょう？ゴミの少なさも影響しているのかとも思ったりしています。



### 4. 運転マナー

驚いたのは信号のない横断歩道では必ず車が止まってくれること。東京ではバスと宅配便車・郵便車を除いて殆どの横断歩道で待っていても止まってくれず、逆にアクセルをふかしてくる車も多かった。

山口は違いました。渡る気がなくても横断歩道の近くにいるだけで止まってくれます。恐縮恐縮です。そういう習慣が強制されなくても身につけている歩行者に優しい社会ができていな、と感心。私も運転中は優しく優しくを心がけています。

### 5. ゴミ収集について

分別が細かく、又収集日が少ないのが難です。燃えるごみ週 2 回、プラ週 1 回はいいですが、ビン・缶・古紙(新聞等)・ダンボールは月 1 回です。我が家も収集日までの保管が大変で、ベランダの一角は取集日待ちの袋で一杯になります。せめてもう 1 回、月 2 回になればと思います。

### 6. 国際化

驚いたのは県庁所在地だからか、国際交流団体の多さと、その活発な活動です。コンサート・展示会・講演・映画上映等々気を付けて見ると本当に多くの活動が様々な場所で行われています。ちなみに、そういった活動を支える施設や、制度も整っており、殆どの活動に山口市が後援として名を連ねているのも嬉しいことです。

私も縁あって早速「山口日 EU 協会」「山口スペイン・ナバラ協会」「山口日独協会」「山口日米協会」に入会しました。又こういった国際交流団体をまとめて何かできないかということで、市役所の支援も得て 13 団体が加盟する「山口国際フレンズネット」という団体をこの 7 月に事務局長として立ち上げました。

「12 月、山口市はクリスマス市になる。」という市を挙げての一大年末イベント参加を目標に、以下の 5 つのイベントを行う予定です。現在企画や準備で結構大変です。山口七夕会ふるさと山口本部も支援団体として、これらの活動を盛り上げます。山口在住会員の皆様は是非参加していただくと幸いです。

#### [山口国際フレンズネット 12月イベント予定]

日時	会場	内容
12月2日(土)	サビエル教会前庭	クリスマスマルシェに参加(テント5張使用) フレンズネット共同・日独・日本ペルー・日フィン・ひらかわ風の会
12月3日(日)	セントコア山口	フレンズネット加盟団体合同交流・懇親会
12月9日(土)	赤レンガ	加盟団体合同展示・交流会 各協会紹介・各国のクリスマスとサンタ (サンタ登場 入場料無料) バッハ演奏・ヒンメリのワークショップ等
12月12~20日(水)	市役所1階ロビー	加盟団体合同展示、各国のクリスマスとサンタ
未定	未定	山口国際交流芸術祭~EU芸術祭(山口EU協会主催) モーツァルト「レクイエム」ミニコンサート(入場料無料)

【講師の寄稿】「金子みすゞ生誕 120 年みすゞさんを深掘り！」

シンガーソングライター ちひろ（会員No.686）

8月19日、まだまだ夏本番の余韻が残る夕方6時。山口市天花に移築された「山口市菜香亭」で、その暑さに負けない熱い会員大集合のもと開催された「夏の講演・交流会」。上記タイトルをテーマに講演のご縁をいただきました。

実は移築される前はこの場所に県職員の公舎4棟が建っていて、私はそこで生まれ育ちました。なのでその場所で、今大切に歌い続けている金子みすゞをテーマに、生誕120年という節目に講演をさせていただいたことは、とても大きな喜びでした。

ちょうど今から100年前の大正12年。童謡詩人として華々しいデビューを果たしたにも関わらず、昭和5年、26歳という若さでこの世を去り「幻の童謡詩人」と称された金子みすゞ。しかし、現在では世界14ヶ国語に翻訳され、日本では全国全ての小学校で使用されている教科書に、みすゞの詩が掲載されるようになりました。

その甦りのきっかけは、昭和41年、今年開館20周年を迎えた金子みすゞ記念館館長・矢崎節夫氏がまだ早稲田大学の学生だった時に、金子みすゞの詩「大漁」に出会ったことでした。それから16年。ずっとみすゞの作品を探し続けていた矢崎氏の住む東京に、みすゞの実の弟が住んでいることがわかり、二人は会う約束をします。弟・上山雅輔は誰にも見せずに守り続けていた、3冊にまとめられた姉の512編の遺稿集を、初めて矢崎氏に渡します。それが原本となり、2年後の昭和59年、『金子みすゞ全集』が出版されました。こうして今を生きる私たちは、金子みすゞの詩に触れることが出来るのです。

金子みすゞの詩を忘れなかった人がいた  
金子みすゞの心を繋いだ人がいた

なぜ金子みすゞの詩は、童謡の枠を超えて世界に広がり続けるのでしょうか。それは、その詩のまなざしが普遍的で、人間が生きるうえでの大切なメッセージが行間から伝わるからです。

「大漁」

この詩は、対となる物事の両面を見つめています。一つの「大漁」という出来事に、「人間の喜び」＝明 と 「海の中の悲しみ」＝暗 があるのです。よく、「明と暗」という順番で表現する言い回しですが、物事の順序からいくと「暗と明」、「暗から明がうまれる」のかもしれませんが、「悲しみ＝暗」

を知っている心は、「喜び＝明」を知ります。悲しみを知らない心は、明るさを明るいとは思わないでしょう。いつまでも、明るい中にまだ明るさを求めて、彷徨い続けます。

そしてこの詩からは「いのちをいただく有難さ」に気付かされます。日頃私たちが唱えている「いただきます」という言葉。この言葉の奥には、犠牲となるいのちや関わってきた人たちへの感謝の気持ちを忘れてはならないことを改めて知るので



「積もった雪」

私達は積もった雪を想像するとき、一つの大きな塊を想像します。けれどみすゞさんはこの詩の中で、上の雪と下の雪、そして中の雪それぞれを見つめます。それはまるで人間社会にも似た構図と言えるでしょう。

金子みすゞの詩の素晴らしいところは、自然界に、人間の生き様を重ねて見つめているところです。実は私たちは、人間以外の姿から、私たちがどう生きるべきなのか、というメッセージを受け取っているのです。表面には見えてこない奥の姿を、心の眼を通して見つめるみすゞさんのまなざし。その両面こそ、そのものの本当の姿なのです。

### 「月のひかり」

この日の講演会では、日ごろのステージではほとんどご紹介しない「月のひかり」という詩も朗読でご紹介しました。みすゞさんの詩には珍しい、一部と二部に分かれている詩の構成で、月が主人公です。賑やかな明るい街を練り歩く人間たちに、気付かれもしない月のひかり。月の寂しそうな様子が伺える一部です。そして二部では、そんな月が、自分よりもっと寂しい、裏町のあばら屋で眠っているみなし児を見つけ、眩しすぎない優しい光で、その子を包むのです。

自分の心のさびしさは、誰かのさびしさがわかる心となります。そして相手への慈しみが生まれます。私は、この‘さびしさ’を知っている心こそ、人間の本質であり、愛がはぐくまれる大切な要素だと思えます。

### 「私と小鳥と鈴と」

そしてこの講演で最後にご紹介したのは、私が20年歌い続けているみすゞさんの代表作「私と小鳥と鈴と」でした。この詩の最後の言葉「みんなちがって、みんないい。」はいろんな場面で使われる言葉です。みすゞさんの512編の詩の思い、眼差しがこの詩に凝縮されていると感じています。

私がよくステージでお話するこの詩から感じ取る心は、「私たちには一人ひとり役割がある」ということです。みんな違いを持っているからこそ、出来ること、出来ないことが違います。だからお互いに助け合って補い合うことが出来るのです。人間は不思議な生き物で、‘何かの、誰かの役に立った’と感じた時、何より大きな喜びを得ます。私たちの‘ちがい’は、そのために与えられた宝物です。

この山口七夕会の会員、講演会に集まった皆さん、みんな、それぞれ違います。でも、その違いを持ったみんなが「山口が大好き、山口を愛している、もっとよりよい山口になってほしい」という同じ思いで、同じ方向を向いて、助け合い、歩いていくことが大事なのです。

それが、金子みすゞが伝えてくれる「みんなちがって、みんないい。」の心です。

これからも皆さんとともに大好きな故郷・山口を盛り上げていきたいと思っています。この度の講演のご縁、本当に有難うございました。

「みんなでもみんなで行こうよ、このみちをゆこうよ。」(金子みすゞ「このみち」より)



P S 全員合唱による「ふるさとの風～山口市民の歌～」は最高でした！

## 山口七夕提灯祭りの火入れボランティア

ふるさと山口本部・本部長 申神 正子（会員No.477）

日本三大火祭「山口七夕ちょうちんまつり」が、このたび例年通り8月6日・7日で開催されました。約600年前から続く「山口七夕ちょうちんまつり」。数万個のちょうちんが街中を幻想的な光で包み、山口の街を紅く染めます。また、殿御輿や姫御輿、ちょうちん山笠が練り歩き、担ぎ手達の熱気で山口の街を盛り上げます。

このたび、我が七夕会ふるさと山口本部会員を中心に、山口大学の学生さん、留学生、そして会員の友人ご家族さま、総勢30名あまりの皆様にご協力いただき、中心商店街の提灯の火を灯しました。

まず歴史を紐解いてみましょう。

・[室町時代]：

大内盛見がお盆の夜に先祖の冥福を祈るため、笹竹の高灯籠に火を灯したのが始まりと伝えられています。

・[江戸時代]：

七夕は、江戸幕府が五節句（重要な年中行事・式日）の一つとして、旧暦7月7日に決めました。

・[明治時代]：

明治43年、陰暦が廃止されたことにより、毎年陽暦の8月7日に「七夕まつり」を開催することになりました。

・[昭和時代]：

（昭和25年）戦時中、自粛された「七夕まつり」が8月7日に復活開催。

（昭和28年）8月6、7日の両日「七夕まつり」が開催され、昼は短冊、7日の夜は紅ちょうちんを点灯。

（昭和35年）8月5日からの3日間開催となり、5、6日に短冊、7日夜にちょうちんを点灯、映画も撮影されました。高校総体が開催され、11日の夜にもちょうちんを点灯。

（昭和54年）「山口七夕ちょうちんまつり」に改称、8月6、7日の両日、ちょうちんを点灯し、毎年趣向を凝らした山笠や御輿が登場し現在に至る。

※（山口市ふるさとまつり実行委員会ホームページから抜粋）

長竹竿1本に約40個の紅ちょうちんは、ひとつひとつ手作業で火を灯します。アーケード内でろうそくに火が灯される、全国的にも珍しい紅ちょうちんのトンネルが山口市中心商店街に繰り広げられるのです。

このたび、我が七夕会ふるさと山口本部会員を中心に、山口大学の学生さん、留学生、そして会員の友人ご家族さま、総勢30名あまりの皆様にご協力いただき、中心商店街の提灯の火を灯しました。

昨年もお協力いただいた家族もおられ、子供さんたちにもかなり好評でした（大人公認の火遊び）、和気あいあいと作業し、全員汗だくになりながら、灯しておりました。

各々の手にチャッカマンを用意し、場所は今年は三か所に分散しました。

道場門前、新町、西門前に17:30には集合し、寝かした竿に提灯そのものを設置することから開始です。竿には針金で提灯を設置します。節に合わせて設置しないと、ずり落ちますので、場所はよく考えなくてはなりません。

竿の周りには10名程度あつまり、そして、火入れGOサインの連絡と同時に一斉にチャッカマンで蠟燭に火をつけ、竿全部の提灯に火が灯ったところで、協力して竿を立てていきます。

これが、難しい！掛け声よろしく、竿を支える人間、起こしていく人間、微妙なバランスを保ちながら起こしていきます。

当然、途中でメラメラと燃え落ちる提灯もありました。それはそれで、ご愛敬。子供たちと、今昔ギャルたちのキャーキャーという声が祭りを盛り上げてくれていました。

作業が終わり、夕方の空に提灯の灯、これが徐々に夜空に映えるようになる風景を見ながら、乾杯するビールの美味さといったら!!! 火入れが終了すると自然に拍手、そして「有難うございました!」のご挨拶です。

それからは、各々祭りを楽しんでおりました。今年は二日間ともお手伝いに上がりました。さらに撤収までお手伝いです。

商店街の皆様がどれだけ毎年大変な作業をされているのか、よくわかりました。

あの幻想的な美しさを保存し、そして祭りのあとのお掃除まで協力して作業されている。山口市を愛する皆さまの気持ちがなせる業であると実感いたしました。

さあ、来年もふるさと山口本部はやりませよ!!! どうですか?

ちょうちん祭りに合わせて帰省なさって一緒に提灯の火を灯しませんか?

また、ふるさと山口本部の会員さまも、どうぞ一緒に「よい汗」かきながら、夕方からのちょうちん祭りを楽しんでみませんか?



## 山口七夕会の活動再考

益本 圭太郎（会員No.785）

山口七夕会の活動について改めて考えてみました。会則に目的として二つのことがあげられています。この内「会員相互の親睦を図り、教養を高める」は、皆様のご努力により十分達成できていると思います。しかし、「山口市の発展に寄与する」は、まだすべきことがあるように思います

山口市の発展に寄与するには 3 つのシーンが考えられます。

(1) 行政主体の山口市、すなわち市役所の施策を通じて生活の場としての山口市の発展に寄与する、つまり、市役所に協力することです。山口市のふるさと納税に応じることは簡単なことです。

また、市役所が取組む施策のお手伝い、或いは、情報を提供することもあります。

七夕会として要請に応じるべきかを判断することは当然ですが、この 20 年、市役所からの呼びかけは皆無でした。

しかし、七夕会会員の活動分野は広く、多くの情報をお持ちだと思いますので、市役所からもっと多くの呼びかけをしてもらいたいものです。

(2) 山口市の魅力を多くの人に知っていただくイベント、或いは市民が楽しむイベントを行う、またこれらのイベントに協力し盛り上げることがあります。

三軒茶屋での物産展の協力、令和 4 年度に東京で行われたストリートピアノ、ちょうちん祭りの火入れなどはまさにこれに該当します。

(3) 山口の改善すべき点等について、七夕会が提言を行うことです。

会員には、市内の各地、各界の方がおられ、日頃に活動の中で気づくこともいろいろあるかと思えます。

しかし、気づきを伝える方法が分からない、個人では伝えることもできない方がおられるのではないのでしょうか。

こうした事柄を七夕会として関係機関に伝える、或いは提言を試みてはどうかと思っています。

具体的に考えている事項があります。

それは、七夕ちょうちん祭りです。

今のままで良いのでしょうか？特に、道場門前ではちょうちんの竿が歯抜け状態になっています。

私は、アーケードの範囲くらいは、ちょうちんの竿が所定の位置に全て立てられ、ちょうちんのトンネルができて欲しいと願っています。

半世紀前は、商店街も繁盛しており、商店街の方々で祭りは維持できていましたが、現在は、そのような状況にはありません。

商工会議所では、ちょうちん祭りは日本三大火祭りの一つと説明していますが、青森のねぶた、秋田の竿灯と比べて見劣りするだけでなく、知名度も全国的に低く、山口県内でも知らない人が多く居ることに愕然としました。

今や、戦後始まった柳井の金魚ちょうちん祭りが全国区となっています。

ちょうちん祭りに対するお考えも一つではないと思います。

多くの案を併記する形でも、ちょうちん祭りのあり方を提言し、関係者に協議していただきたいと思っています。

会員から問題が提起されれば、役員の方々が判断するか、問題によってはメールで会員の意見を聞くなどして、七夕会の決定事項ではなく、一つの考えとして関係機関に提言していくことを検討しても良いのではないのでしょうか？

## 令和5年度山口七夕会ふるさと山口本部「夏の講演・交流会」の報告

ふるさと山口本部・事務局長 庄 栄一郎（会員No.475）

令和5年8月19日（土）18時から、山口市菜香亭で76名の参加で開催された。産学官の色々な立場の一人一人違った会員が、「山口が大好き」という共通の想いで前に進んでいく、まさに金子みすゞの「みんなちがって、みんないい。」を具現化したかのような、「新しい山口の歴史、文化は、山口七夕会から作られる」、そんな予感さえ感じさせる会となった。

始めに総会を行い、申神本部長の挨拶、伊藤市長からのご祝辞の後、市長から「山口七夕ふるさと大使」に再任された山口市在住の4名に委嘱状が交付された。

そして申神本部長より、「山口七夕会年次総会」の報告が2倍速で行われた。

18時15分より、ちひろさんが、「金子みすゞ生誕120年 みすゞさんを深掘り！」の講演。

みすゞさんの4つの詩について朗読と解説。

「大漁」と「私と小鳥と鈴と」は、ちひろさんが作曲された曲で歌も披露。

「私と小鳥と鈴と」の有名な最後の部分、「みんなちがって、みんないい。」でみすゞさんの伝えたかったことは何か。

それは、好き勝手することを認めるのではなく、一人一人違った者が長所、特性を活かし助け合い、『同じ方向を向いて歩いていくことの大切さ』である、と。

山口七夕会も一人一人は違うが、「山口市が大好き」という共通の想いで進んでいくことが大切であると締めくくられた。

同会場で19時00分から交流会。

村岡知事のご祝辞の後、入江議長のご乾杯のご発声で開会。杉田水脈衆議院議員からもご祝辞をいただき、交流会へ突入。

食事はセントコア山口の増本料理長が腕によりを掛けられた二段弁当とオードブル。デザートは、「チョコのまち山口」にちなんでチョコで表面を飾ったカヌレ。

ドリンクは会員の自宅で眠っているお酒も持って来ていただき豊富なラインナップ。

余興は、旭水産様、田原外郎様、竹内酒造様、セントコア山口様より絶大なる協賛をいただきジャンケン大会とスイカの重量当てクイズ。

会場が100畳の大広間ということもあり、テーブルを越えてあちこちで車座ができ、余興の

時間も通して、会員同士がお酒を注ぎ合い、語り合い、笑顔で一緒に写真が撮られていた。

また今回は知事が初参加されたので、「知事に自分のしていること知ってもらいたい」という会員が名刺を持って順番待ちもできていた。

最後はちひろさんのナビゲートの下、「ふるさとの風～山口市民の歌～」を全員で合唱。

最初はちひろさん一人が前で歌われスタートしたが、みるみるうちにちひろさんの周りに、知事、市長、議長をはじめ何人も会員が集まり、肩を組み、大きな声で大合唱に。

産学官の色々な立場の一人一人違った山口七夕会の会員が、「山口市が大好き」という共通の想いで集まり前に進んでいくようで、まさに金子みすゞさんが詩で伝えたかったことが具現化された。

「新しい山口の歴史、文化は、山口七夕会から作られる」、そんな予感さえした。

21時00分、松西副本部長による中締め的一本締めで会を閉じた。

菜香亭での宴会は、準備から後片付けまで主催者側がする必要があるが、役員以外の参加者にも手伝っていただき21時半までに完全撤収。



ジャンケン大会



100畳の大広間で最後に集合写真

【リレーコラム】～ふるさとの味めぐり～人を繋ぐめんま作り

武石 智絵（会員No.849）

山口の「ふるさとの味」が何たるか・・・そんなことも知らない、山口県民としては、まだまだ赤ちゃんである私が今回、会報山口七夕会～ふるさとの味めぐり～のバトンを預かることになりました。

私は2020年、結婚を機に大阪から夫の暮らす山口市徳地へ移り住むことになりました。

山口での暮らしはまだ3年ですが、この自然豊かで人の温かい山口が大好きです。

さて、私の住む徳地地域。全国どこでも課題は同じですが、過疎化・高齢化などで山畑は手つかずになり、今では竹が繁茂。土砂災害などを引き起こす要因にもなり、「厄介者」の竹がどんどん増えてしまう。

どうにか今の時代に合った竹の活用法がないかと、たどり着いたのが、伸びすぎた筍(幼竹)を食べることで竹林整備につなげるという「純国産メンマプロジェクト」でした。

今まで放置され、蹴とばされ、資源とされてこなかった幼竹を食べることで、これ以上出る竹を抑えることができる。

そして「メンマ」においては9割が輸入品。食べること、楽しいことが大好きな私の思いは一気に加速し、地域に山ほどある「厄介者」の幼竹で山口のオリジナルメンマを作ってみようと、竹の資源化を「めんま作り」から始めました。

そして、昨年11月、山口らしいネーミングをと「徳地竹菜めんま維新」が誕生しました。私は以前から「ふるさと」とは何も生まれたその場所が「ふるさと」とは限らないと思っています。

その地を訪れた方、他から来られた方、私のようないわゆる「よそのもの」でも、そこが「心が落ち着く場所」ならば、その場所が「ふるさと」なのだ。

自然豊かで人の温かいこの山口を私は「ふるさと」と慕い、このわずか3年間ですが出会った方々への感謝の気持ちを込めて商品づくりに取り組んでいます。

そしてこの私の竹の資源化の取り組みが、人を繋ぎ、地域を繋いでいけるといいなあと願うのです。

まだまだ始めたばかり、地域にあるものを活かし、安心安全とおいしさの追求を課題に取り組んでまいります！



徳地竹菜めんま維新



地域住民とのメンマ作り体験



荒廃竹林

## テキスト生成AIによる「山口市の紹介」

山口七夕ふるさと大使 岡本 暁彦（会員No.491）

最近人工知能が進歩しており、徐々に生活に浸透してきました。今回、山口市の紹介をふたつのAIに大使になってもらい書いてもらいましたので紹介します。

### （Open AI 社 Chat GPT-3.5 大使）

山口県山口市には、歴史と芸術が息づく大内文化が根付いています。

戦国時代に織田信長に対抗する大内氏が築いたこの文化は、茶道や能楽、歌舞伎などが含まれており、今もその息吹を感じることができます。

シンボルとして重厚感のある五重の塔の周辺や雪舟亭は、まさに大内文化の魅力を再現し、訪れる人々を魅了します。

壮麗サビエル記念聖堂もあり、これら文化に触れながら、地元の歴史の奥深さと誇りを再確認できます。

山口市の銘菓である風味豊かな「外郎」は他県にはなく、地元ならではの美味しさが広がります。山口の風土や伝統を体現したものです。

同郷会である山口七夕会は、地域の結びつきを強化し、心温まるひとときを提供する素晴らしい場です。この場に集う人々は、過去と現在、そして未来をつなぐ架け橋として、共に歩むことを大切にしています。

会の中で綴られる数々の物語や思い出は、次世代に語り継がれ、山口市への深い愛と誇りが未来へと続く大切なエッセンスとなります。

### （Google 社 BARD 大使）

山口県山口市は、県庁所在地で、古くから中国地方の中心地として栄えてきた街です。

大内氏や毛利氏などの武将が治めた時代の遺構が数多く残されており、その歴史の重みを肌で感じられます。

明治維新の中心地としても知られ、山口県庁旧本庁舎は、明治維新の立役者である伊藤博文らが、明治政府の官庁を置いた場所です。現在は、国の重要文化財に指定されています。中心

地にある湯田温泉は、山口県を代表する温泉地であり、古くから「西の横綱」と呼ばれています。

また長門峡は、雄大な渓谷美を誇る景勝地でぜひ訪れていただきたいです。

代表的な銘菓である外郎は、わらび粉や小麦粉を練り上げて蒸しあげ、餡を包んだ和菓子です。その滑らかな食感と上品な甘みです。わらび粉の豊かな風味と、餡の優しい甘みが絶妙にマッチしています。また、外郎は、冷やして食べると、より一層美味しくいただけます。

山口市には、室町時代に創業した老舗外郎店が複数あり、山口市を訪れた際にはその伝統的な製法で作られた外郎をぜひ味わってみてください。その美味しさに、きっと驚きます。

最後に七夕ちょうちん祭りを紹介します。

山口市内のメインストリートである県庁通りに、約1万5千本のちょうちんが飾られ、幻想的な雰囲気醸し出します。

また、七夕飾りや屋台も多数出店され、多くの人で賑わいます。さまざまな種類の外郎も販売しているので、ぜひ、七夕ちょうちん祭りを楽しみながら、外郎を味わってみてください。

山口市は、歴史と文化、自然とイベント、すべてが揃った魅力あふれる街です。ぜひ、一度訪れてください。

追伸：（岡本） 多少手直ししましたがいかがでしょうか。ではまた次回。

## 第7回 山口七夕会ふるさと山口本部音楽祭 輪—R I N—（報告）

坂本 哲也（会員No.470）

令和5年5月27日14時から音楽祭が開催された。

例年であれば、山口日産自動車（株）の末富会長のご厚意によりポルシェセンターをお借りして行うのだが、改修工事が行われるとのことなので、今年は山口県教育会館第一研修室に場所を移し、宇部市出身のシャンソン歌手大塚茉莉子（オオツカ マリコ）さんをゲストにお迎えして行った。

大塚さんをお迎えすることになった経緯だが、我が娘が声楽を習っている音楽教室の先生から、「昔うちの教室に通ってた大塚茉莉子っていう今東京でシャンソン歌手をしている人が今度宇部で凱旋ライブをするけど、歌唱力がとにかくすごいから聴いてみませんか？」とお誘いを頂き、娘と一緒にライブに参加したのがきっかけだった。

そこで聴いた歌声たるや、衝撃的で正直圧倒された。オリジナルを含めジャンルを問わずいろいろな曲を歌われたが、その中でもカッチーニの『アヴェマリア』、Volevo un gatto nero「黒ネコのタンゴ」など、本当に同じ人物の声なのだろうかと思うほど、音域の広さだけではない声質、雰囲気等まさに声の七変化であった。

ハスキーヴォイスとまではいかないが、少しかすれた高音域の音をか細く薄く出す歌い方等は流石で、例えるのは難しいが、ラヴィング・ユーを歌うミニ・リパートンのような声、一発で魅了されてしまった！

「なんとかこの方をゲストに呼べないものか！」と思ったが…、東京在住だし、経費的なことも考え流石に厳しいかと。

それから暫くして吉報が飛び込んで来た。大塚さんが結婚を機に宇部市に帰ってこられるとのこと。私はすぐに連絡を取り状況を説明、快諾して下さり今回のような運びとなった。

音楽祭は二部構成で行った。第一部は同じく宇部市出身のピアニスト田中祐樹さんに演奏していただき、シャンソンを中心とした世界の楽曲を、第二部は大塚さんが毎週日曜日20時よりYouTubeでウクレレ片手に『酔歌』と題して弾き語りライブを配信されているのだが、そのままの雰囲気でもお願いして、オリジナル曲も含めジブリ曲などを演奏していただいた。

今回の音楽祭のねらいの一つでもある「山口の将来を背負って立つであろう子供たちに本物の音楽と触れ合える場を提供したい」との思いで高校生以下は無料とした。

途中その子供たちを含む参加者全員と大塚さん

とで『ふるさと』を大合唱する場面などもあり、まさに会場が一つの輪で繋がったように見える場面もあった。

終わりに私事で恐縮ですが、2016年からこの音楽祭に携わらせて頂きましたが、今回で役を降りることと致しました。

途中コロナ騒動などもあり、開催できなかった年もありましたが、多くの皆様の協力のもと、何とかやってこれました。この場をお借りして感謝申し上げます。新音楽部会長として二胡奏者でピアニストでもある山下りえこさんにバトンタッチを致しました。

才能、そしてユーモアどちらとも兼ね備えておられる山下さんを中心として創られる次回音楽祭が今からとても楽しみです。

これから益々音楽を通じて人と人が繋がり、いつの日か大輪となりますことを祈念して音楽祭のご報告とさせていただきます。

ありがとうございました！



## 編集後記の後記

本部・本部長代行 西村 弘文（会員No.464）

8月の総会をもって会報編集長が交代しました。次の編集長にはふるさと山口本部の庄さんが就きました。そこで今回は、私が4年6月号から5年6月号までの会報 山口七夕会を編集して感じたことを記事として投稿しました。

苦戦したのは、原稿集めと編集作業のPC操作です。前編集長の楢山さんに聞くと、「書いてくれそうな人に個別に依頼した。」とのこと。なるほどとは思いつつも、書くことが好きな人も、ネタを持っていないような人も、どちらも思い浮かばないまま締め切り日が迫る状況が常でした。そんな中、毎回寄稿して頂いた渡邊さんの存在は大変ありがたかったです。また、山口の味をテーマとして寄稿者が次の寄稿者にタスキを渡していくリレーコラムのシステムは素晴らしいと思いました。幸せなことに、毎号共にほぼ4件の寄稿があったので、各種イベントのレポート記事と合わせると会報の体を成し得たのかなと思います。

PC作業には手間取りました。若いころは計画書や報告書を頻繁に作っていて、事務作業も得意だったのですが、この十数年の間は担当者が持ってくる紙に赤ペンで修正案を書き込むばかりで、PC作業からは遠ざかっている状態。そのうえ、若い頃に慣れ親しんだ「文豪（NEC製のワープロ）」も「一太郎」もメジャーな地位には既になく、マイクロソフト社の「WORD」と戦うことになりました。寄稿者から送られてくるワードの文章は字数もレイアウトもそれぞれが異なっており、これを1文章を1ページ（ときに2ページ）に見栄え良く収めるのが大変でした。

ページ構成にも難しいところがありました。読みやすく興味を引く構成にするために写真を多く使いたいのはやまやまですが、写真はデータ容量が大きいため、多用すると会報のデータサイズが大きくなり、そのまま貼り付けると会報のサイズが10ギガを軽く超え、メールに添付しての送受信が出来なくなります。最終原稿の校正にはデータのやり取りが必須です。写真のデータサイズを1枚ごと縮小する手間もですが、画質の低下とのバランス取りにも苦慮しました。加えて、文字と写真で切りよく1ページ乃至2ページに収めるとの制約もあります。出来の善し悪しは置いて、紙面を作ることにはかなりの時間と労力が必要であることは知っておいて下さい。

不慣れなPC作業を進めるにあたっては、知り

たい操作要領をWEBで調べ、都度勉強しました。WEB検索には非常に助けられました。書いてある内容が専門的で理解できず、不明な用語を珠数繋ぎに調べてやっと要領を得ることが多かったのです。共通語としての技術用語を理解することの必要性を痛感しました。

楽しかったことは、編集を通じて投稿者との繋がりを深めたことです。ノンキー岡田さんの「ベンチャーズは永遠のアイドル」では、行付けだった居酒屋で意気投合したDr. Hさんが岡田さんのバンドメンバーであったことを発見し、世間の狭さに驚きました。「ひとみそ会の集いあれこれ」を投稿された小川さんに5年度年次総会でお目にかかりましたが、懇親会で短時間ながら特別な思いをもってお話しできました。読者の立場であっても、気になる記事を通じて内容と投稿者に興味を抱くことは茶飯事で、交流会で会うことになれば会話が何倍も楽しくなると思います。皆さんも思いついたことがあれば文章にして、遠慮なく庄編集長に送ってみれば、その後にはきっといいこと、いい出会いがあると思います。

会報の使命は、山口七夕会の活動を記録して内容を皆さんに伝えることと、会員の皆さんに発信の場を提供することだと思って編集にあたりましたが、使命が果たせていれば幸甚です。

<新入会員(個人会員番号・氏名)及び法人会員の皆さん>

《令和4年9月以降の新入会員》

(氏名住所は公開会員名簿への掲載承諾者のみ)

会員番号	氏名	住所
832		
833		
834		
835		
836	藤原ひろ子	東京都墨田区
837	本廣明美	山口県山口市
838		
839		
840		
841		
842		
843	棟久佳代子	山口県山口市
844	棟久木綿子	山口県山口市
845	中原晃治	東京都港区
846	平田英俊	山口県山口市
847	山縣昂亮	山口県山口市
848		
849	武石智絵	山口県山口市
850	田浦保穂	山口県山口市
851	安田智史	山口県山口市
852		
853	三戸孝文	山口県山口市
854	末廣将志	東京都武蔵野市
856	今井達也	東京都大田区

《全法人会員》

法人会員
山口日産自動車株式会社
旭水産有限会社
株式会社 常盤
株式会社 地域情報新聞
株式会社 技工団
有限会社 劇団角笛
マルシフードサービス株式会社
社会福祉法人 青藍会
株式会社 セブンシステム
株式会社 光華
株式会社 ベルミューズ
一般社団法人 日本自動車連盟山口支部 (JAF 山口支部)
株式会社 アドギルド・ジャパン
弁護士法人末永法律事務所
BRAIN SIGNAL 株式会社
公益社団法人 山口被害者支援センター
株式会社 小郡衛生公社
株式会社 エフエム山口東京支社
株式会社 竹内酒造場
C&C 山口
湯田温泉旅館協同組合
公立学校共済組合山口宿泊所 セントコア山口
株式会社 クリエイティブ・トゥエンティワン
株式会社 スタジオセンス

令和5年9月20日現在の会員数:個人会員376人、法人会員24法人

<新任・再任の山口七夕ふるさと大使委嘱者>

※年次総会(東京8/5)での委嘱者(17名)

	会員番号	氏名		会員番号	氏名
1	42	板藤滋	10	367	利重尚義
2	670	岡本達也	11	611	藤井謙志
3	330	奥原保	12	382	松本和江
4	680	神原昭彦(新任)	13	385	三好正信
5	122	蔵成洋三	14	706	村中正司
6	228	児玉秀文	15	52	八木重二郎
7	289	品川征志	16	583	山口蘭子(伊藤あゆ子)
8	248	末貞哲郎	17	384	山根洋平
9	219	武内衛子			

※山口本部総会(山口8/19)での委嘱者(4名)

	会員番号	氏名
18	579	梶山俊哉
19	686	ちひろ(藤井千尋)
20	20	富田捷治
21	364	渡邊史信

新任1名 再任20名 R5年度21名の委嘱

「役員一覧（令和5年8月5日現在）」

下線が変更部

≪山口七夕会役員≫

役職	氏名	備考
会長・評議員	秋草史幸	代表、総会・評議員会議長
副会長・評議員	藤井謙志	会長補佐・個人情報取扱責任者・本部本部長
副会長・評議員	申神正子	会長補佐・ふるさと山口本部本部長
評議員	関 周	会計・本部幹事長
<u>評議員</u>	<u>庄栄一郎</u>	<u>機関紙編集長・ふるさと山口本部事務局長</u>

監査役	大枝幹夫	本部担当
監査役	伊藤満宏	ふるさと山口本部・事務局担当

顧問	石田順康	
顧問	山本和生(在山市)	
顧問	八木重二郎	
顧問	渡辺純忠(在山市)	
<u>顧問</u>	<u>清水久洋(山口県東京事務所長)</u>	
<u>顧問</u>	<u>奥原保</u>	
<u>顧問</u>	<u>渡邊史信(在山市)</u>	

≪本部役員≫

役職	氏名	備考
本部長	藤井謙志(再掲)	本部統括・ゴルフ部会長
本部長代行	西村弘文	<u>広報統括(東京・山口)</u>
副本部長	岡本達也	本部長補佐・情報発信
幹事長	関 周(再掲)	会務総括・会計
副幹事長	村中正司	幹事長補佐(関西常駐)
幹事	岡崎龍也	<u>会計補佐</u>
幹事	引頭和江	会計補佐
幹事	田村廣修	山口七夕会ホームページ管理
幹事	小野美穂子	イベント企画
<u>幹事</u>	<u>神原昭彦</u>	<u>会員増強</u>
顧問	武内衛子	
顧問	山根和也	

≪ふるさと山口本部役員≫

役職	氏名	備考
本部長	申神正子(再掲)	本部総括
<u>副本部長</u>	松西照美	<u>本部長補佐</u>
<u>事務局長</u>	庄栄一郎(再掲)	<u>会務総括</u>
事務局長補佐	柴田尊明	事務局長補佐
幹事	中野邦夫	会計
幹事	関 和貴	楽農部会長
幹事	嘉瀬 修	日本酒部会長
幹事	<u>山下りえこ</u>	<u>音楽部会長</u>
幹事	仙田達夫	
幹事	吉原真也	
幹事	杉本理恵子	
幹事	馬越尚史	
幹事	森永友世志	
監事	原田茂樹	
<u>ふるさと山口本部アドバイザー</u>	<u>渡邊史信(再掲)</u>	

## 〈山口市役所より〉 ふるさとやまぐち寄附金(ふるさと納税)のお願い

平素から、山口七夕会の皆様におかれましては、本市の産業振興に多大なる御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。とりわけ、特産品の振興につきましては、これまでふるさとと製品の斡旋やフェアのお手伝いなどを御協力いただき、この場をお借りして感謝申し上げます。



2023.7.13～16 東京『やまぐち館』にて

さて、皆様御承知のとおり、ふるさと納税制度につきましては、生まれ育ったふるさとや、関わりの深い地域を応援したいという気持ちを寄附という形でまちづくりに貢献できる仕組みでございます。

昨年度、本市におきましては、山口七夕会の皆様をはじめ、全国各地の皆様から約4億6千万円の御寄附をいただきまして、本市の子育てや教育などの様々なまちづくりの取組に活用させていただいたところでございます。御寄附をいただきました皆様に改めて感謝とお礼を申し上げます。

本市のふるさと納税につきましては、御寄附をいただきました皆様方へお送りする返礼品として、「山口外郎」や「あいおえび」、「湯田温泉宿泊割引クーポン」など、現在、約450点以上のふるさとと製品やサービスを取り揃えております。

寄附額：10,000円  
御堀堂の外郎 小形 20個入



寄附額：20,000円  
活きあいおえび 600g



寄附額：50,000円  
湯田温泉宿泊割引クーポン



その他のふるさと納税返礼品や寄附の仕方につきましては、右記 QR コードからご確認いただけます。

彩都山口



今後も、ふるさと納税の取組を通じまして、ふるさと山口に熱いエールを送っていただきますようよろしくお願いいたします。

山口市商工振興部ふるさと産業振興課  
ふるさと産品営業担当 《tel》083-934-2812  
[furu@city.yamaguchi.lg.jp](mailto:furu@city.yamaguchi.lg.jp)

## ＜山口市役所より＞ イベントのお知らせ

三軒茶屋で開催される『おいでませ山口県！PRし隊！2023』に山口市内の事業者が出店します。山口市内の特産品を多数取り揃えておりますので、ぜひお越しください。

- 日時：令和5年10月14日(土)・15日(日)の2日間 10時～17時
- 会場：三軒茶屋ふれあい広場(世田谷区太子堂2丁目17番)
- 内容：山口県内各地の特産品販売、徳地手漉き和紙のワークショップ など  
イベントの詳細は、同封のチラシをご覧ください。

山口市商工振興部ふるさと産業振興課  
ふるさと産品営業担当 《tel》083-934-2812  
[furu@city.yamaguchi.lg.jp](mailto:furu@city.yamaguchi.lg.jp)

## ＜山口七夕会 第8回八木重二郎杯 会員親睦ゴルフのお知らせ＞

- 日時：令和5年11月29日(水) 8:00 キャディーマスター室前集合
- 場所：PGM武蔵ゴルフクラブ(埼玉県比企郡鳩山町大字小用1026番地)
- 会費：20,600円(キャディー付きプレーフィー)  
詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

## ＜山口七夕会 秋の紅葉ウォーキングのお知らせ＞

- 日時：令和5年12月2日(土) 11:00～14:30
- 場所：東京駅丸の内南口 ほとバス乗り場集合 10:40
- 内容：ほとバス(11:00～12:00)、懇親会(12:30～14:30)(東京駅周辺)  
詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

## ＜令和5年度山口七夕会“秋の交流会”のお知らせ＞

- 日時：令和5年12月16日(土) 11:00～14:30(受付会誌10:30)
- 場所：「インテリジェントロビー・ルコ」東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル1F
- 内容：【I】講演会 11:00～12:00 講師 (株)レノファ山口小山会長  
演題 「レノファ山口FCの過去・現在・未来」  
【II】交流会 12:15～14:30 恒例 山口グッズがもらえる「じゃんけん大会」他
- 会費：6,000円  
詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

## ＜令和5年度山口七夕会ふるさと山口本部「秋の講演・交流会」のお知らせ＞

- 日時：令和5年11月4日(土) 講演会18:00～19:00 交流会19:00～21:00
- 場所：セントコア山口(山口市湯田温泉3丁目2-7 TEL 083-922-0811)
- 講演：～紙芝居と昔話で綴る～風水の町山口
- 講師：松井邦昭氏(山口市交流創造部観光交流課専門監・山口紙芝居の会代表)
- 会費：7,000円(講演会のみは1,000円)  
詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

< 会報山口七夕会への投稿を募集します >

1. 大使の一言(「山口七夕ふるさと大使」の皆さんの自己紹介記事やメッセージ)
2. 私の一言(会員の皆さんの自己紹介記事やメッセージ)

★テーマの一例

- (1) 山口市に関する豆知識
- (2) 山口県外にある山口ゆかりのものや活動
- (3) 今、思っていること

★字数

1,200 字程度の文章と写真 2 枚程度を基準。紙面構成上、フォント、行間等を調整します。

★投稿締切

6月号(5月中旬)、9月号(8月中旬)、1月号(12月中旬)

★投稿提出先

下記に電子データ(Word、テキスト形式など)でお送りください。

会報山口七夕会編集長(庄 栄一郎): [ssho04281103@hi.enjoy.ne.jp](mailto:ssho04281103@hi.enjoy.ne.jp)

< 重要 > < 公開会員名簿への掲載承諾のお願い >

会員相互の交流促進や会の活性化に役立てばと、記載事項を限定した「公開会員名簿」を作成・発行します。作成に当たり、名簿への記載についての承諾を個別に頂きたく、趣旨及び通知の要領についての文書を前々号(1月号)に掲載しましたが、通知者は82名ほどの状況です。

趣旨に賛同していただける方は、記載を承諾する旨を下記まで連絡願います。

「公開名簿で懐かしい名前を見つけて交流が再開した」といったことになればと考えています。

記

メールの場合: [seki@8011.jp](mailto:seki@8011.jp) (関 周 宛)

郵送の場合: 〒114-0034 北区上十条 3-3-16 関 周 宛

< 重要 > < メールアドレス登録のお願い >

2023年、山口七夕会はライブや各種イベント、ウェブ抽選会など「新しい企画」にどんどん取り組んでいきます。

新しい企画はメールを主用してご案内していきますので、メールアドレスの登録をお願いします。

現状、個人会員376名のうちでメールアドレスを登録されている方は251名ですが、その内の37名は送信不能ですので、既に登録されている方も確認のため再度登録をお願いします。

【登録方法】

●QRコードリーダー付きのスマートフォンから登録される方は、右のQRコードを読み込んでください。



●パソコンから登録される方は、本文にご自分のメールアドレスを入力して、「[seki@8011.jp](mailto:seki@8011.jp)」にメールを送信してください。

【編集後記】

「本部」の西村弘文さんから編集長のバトンを引き継いだ「ふるさと山口本部」の庄です。今年還暦です。

山口県職員で、職場は柳井農林水産事務所の大島分室(周防大島駐在)です。

西村さんは、ブルーインパルスの元隊長で、宇部高の一つ上の先輩。

自分はボランティア活動している、長州HST(ハッピー・スマイル・ときめき隊)の隊長。

県内のお祭りでAKB48の「恋するフォーチュンクッキー」等をコスプレして踊り、祭りを盛り上げています。

日本の花形、航空自衛隊ブルーインパルスの元隊長から、周防大島駐在で、県内各地の祭りでコスプレして踊っている長州ハッピー・スマイル・ときめき隊隊長へのバトンリレー。

未来に繋ぐバトンとしてしっかりバトンを受け取りました。

機関紙編集長(ふるさと山口本部事務局長) 庄 栄一郎



【事務局からのご案内】

◎転居されるご予約のある方は…転居予定日、転居先を任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(ご連絡がないと会報 山口七夕会や市報等の資料が届かなくなってしまう)

◎退会を希望される方は…退会されるのは残念ですが、任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(会員録の整理などの事務手続に必要となります)

★事務局(山口市企画経営課内)  
〒753-8650 山口市亀山町2番1号  
TEL 083-934-2746  
[kikaku@city.yamaguchi.lg.jp](mailto:kikaku@city.yamaguchi.lg.jp)